ご挨拶

公益財団法人愛媛県体育協会会長　大亀孝裕

子規の野球殿堂入りを記念して創設された「スポーツ俳句大賞」は、関係の方々のお力添えにより本年で十回目を迎えることができました。心から感謝申し上げます。この「スポーツ俳句大賞」はスポーツと文化が融合した新しい芸術文化を全国に発信するだけでなく、「スポーツ俳句」を愛媛ブランドとして定着させることを目指しております。

今回応募いただいた俳句は、一般の部で二千三百三十三句、ジュニアの部で一千二十四句、ハイブリッド（写真俳句）部門は一百四点（計三千四百六十一句・作品）もの多くの応募をいただきました。さらに、地域的にも全国四十二都道府県からの応募があり、「スポーツ俳句」という文化が徐々にではありますが、全国に浸透してきたといえます。

昨年度の表彰式では、三月十一日に発生しました東日本大震災の影響で交通網などの復旧が充分でない中、茨城県から参加された受賞者や、震災後、連絡が取れず、関係者一同心配していた受賞者もおられましたが、避難先から葉書が届き、無事が確認されました。今年度も岩手県、宮城県、福島県から三十八点もの震災に負けない力強い俳句を応募いただき、「スポーツ俳句」を通じて、皆様とのつながりを強く感じることができました。

毎年のことでありますが、「第十回えひめスポーツ俳句大賞」がこのように盛大に開催できましたのは、愛媛県俳句協会をはじめ審査員の方々、各賞・宿泊券・松山銘菓等をご寄贈いただきました報道関係団体、有名ホテル、有名菓子舗、この他にも協力・協賛・後援をいただきました団体・企業等の関係の皆様方のご支援によるものであります。心より厚くお礼を申し上げます。

また、今回も多数のご応募があり、審査員の先生方もご苦労されたことと思います。たくさんの素晴らしい作品をお寄せいただいた応募者の皆様方に敬意を表します。回を重ね、より多くのスポーツファンや俳句愛好者の皆様に関心を寄せていただくことで日本中に「スポーツ俳句」という新しい文化が根付き、大きく育っていくことを祈念して挨拶といたします。